トピックス

「アサクラサンショウ」の結実の謎

「アサクラサンショウ」は県北部の地域特産物で、雌雄異株である（写真1）。ほ場には雄株はほとんどみられないが、結実が皆無となることはない。結実には花粉が必要なのか、必要であればどのようにして運ばれるかについて探ってみた。その結果、結実に花粉は必要であり、風によって運ばれるものの、昆虫による可能性も大きい。

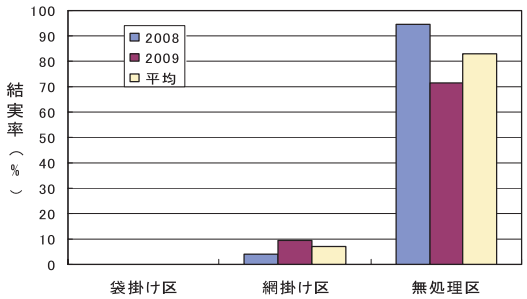
結実に花粉が必要かを明らかにするために、まず雌株の開花前に花房全体に乳白色の袋をかけると、全く結実しなかった。満開から約１カ月後に花をよく観察すると柱頭が伸びたままの状態で、実の部分が発育していなかった。恐らく、花粉が来るのを待っていたまま、結実しなかったのであろう。このことから、結実には花粉が必ず必要であることが分かった。

次に、虫が出入りできない程度の２～３㎜目の網で樹全体を覆ってみると、わずかではあるが結実が認められた（写真２）。２カ年の結果であるのでほぼ確実であろう。網をかけることで風通しが悪くなるものの、風により花粉が飛んできて結実したと考えられる。しかし、当センターの果樹園では雄株を栽培していないので、花粉がどこから飛んできたかは不明である。恐らく、近くの野生の雄株のサンショウから花粉が飛んできたのであろうが、野生の雄株はそれほど無いのに、交配できるとは不思議である。

しかし、開花時期に雌株を観察してみると、盛んにミツバチやアブ等が花房にたかっているのを見かける（写真３）。実際にはこれら昆虫が花粉を運んでいるかも知れないが、まだ確証はつかめていない。

「アサクラサンショウ」の結実の謎は深まるばかりである。

松浦　克彦（北部農技　農業・加工流通部）
（問い合わせ先　電話：079－674－1230）



各区の結実状況

写真２　袋掛けをすると結実せず（左）
網を掛けると４～10%程度結実した（右）

写真１　雌株（左）と雄株

写真３　開花時に見られる訪花昆虫

ひょうごの農林水産技術　No.169　（2010.5）
平成22年5月15日　　兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）－47－2400
22農Ⓟ2-001 A4